

旅行取扱状況の概観（平成17年8月分）

海外旅行の取り扱いでは、団体旅行は一般団体、学生団体の取り扱い不振により、大きく前年実績を下回り4ヶ月連続の前年比マイナスとなった。企画旅行もホリデイは取り扱いが増加したが、その他企画商品が伸び悩んだため、ほぼ前年並みの実績に留まった。一方、個人旅行は航空券の取り扱い好調が全体を押し上げ、前年比プラスへと回復した。

海外旅行合計は、団体旅行の取り扱い不振により前年比93.3%と低調な実績に終わり、4ヶ月連続で前年実績を下回った。

国内旅行の取り扱いでは、一般団体、学生団体共に取り扱いが低調で、3ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。企画旅行ではメイトが前年比98.4%と前年実績を下回っているが、これは計上基準の変更による異常値の影響があり、販売の実勢は前年比で101%程度の状況である。個人旅行は、宿泊券の取扱いは伸び悩んだが、愛知万博の入場券の好調、夏場の需要を取り込んだJR券、航空券の堅調により、前年実績を上回り2ヶ月ぶりの前年比プラス。

国内旅行合計は、団体旅行、企画旅行の低調により、前年比96.5%と前年実績に届かず、3ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。

外国人旅行は、法人需要の受注好調、個人需要の取り込み堅調が続き、前年比187.0%と大きく前年実績を上回り、9ヶ月連続での前年比プラスと好調に推移した。

8月の総取扱額は、国内、海外の団体旅行の不振、国内企画旅行の伸び悩みにより、前年比95.9%と前年実績を下回り2ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体では、好調に推移していたイベント・コンベンション関係が伸び悩み、その他団体も取り扱いが低迷したため、大きく前年実績を下回った。学生団体も、夏場の主力である校外学習・研修旅行等の取り扱いが低調で前年実績に達しなかった。方面別の取り扱いでは、夏場の需要を取り込んだ、ハワイとミクロネシアが好調であった程度で、アジア、ヨーロッパ、オセアニアは前年実績に達しなかった。中国は依然前年の7割程度で推移している。

(2) 企画旅行

ホリデイは取り扱いが増加し、前年比104.1%と7ヶ月連続の前年比プラスと好調に推移している。方面別取り扱いでは、アジアでは台湾の好調が続き、シンガポールも前年をオーバーした。ハワイ、アメリカ、オセアニアはいずれも2桁増と好調。ミクロネシアも前月に引き続き前年を超えて堅調に推移した。中国は前年の40%と、回復の兆しが見えない。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体はイベント・コンベンション関係の取り扱いが低迷したため5ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。学生団体は校外学習、各種大会等の取り扱いが伸び悩んだため、前年実績に達せず3ヶ月ぶりの前年比マイナス。

(2) 企画旅行

メイトの販売実勢は、九州、沖縄方面の取り扱い堅調により、前年比101%と前年実績を超えたが、近場商品、宿泊型商品の伸び悩みが目立った。

(以上)